

大分県多文化共生モデル事例集



令和7年度

大分県多文化共生モデル構築委託業務

グローカルおおの

はじめに:なぜ「おせっかい」が必要なのか

それは、私の海外経験から感じた人の温かさ。

～単身で東南アジアで過ごした2年間の間に体験したこと～

停電になったある夜のこと。ひとり暮らしを心配され、ろうそくが灯された隣人の家に招きいれてもらいました。

以来、ひとりで食事は寂しいだろうからと、いつも声をかけてくれる近隣の方と食卓を囲む日々。

特別な観光資源もなく、生活も決して便利とは言えない田舎町。それでも日本に帰りたくない、ここに残りたい。と強く思わされたのは、人の温かさ。

それは、日本に住む外国人も同様。

見知らぬ土地で生活する外国人に我々から声をかけ、安心して過ごしてもらいたい。

そのためには、お互いの日常を重ねる「おせっかい」が必要。

これまでに、グローカルおおのが取り組んできたお互いの日常を重ねる活動を紹介し、我々と同じように外国人に手を差し伸べようとしている皆さんの参考にしてみらうことで、より多くの外国人が日本を好きになってくれると信じています。



グローカルおおの 代表 森 美由紀

豊後大野市の現状と課題

■ 市内の外国人住民数と、日本人住民へのアンケート結果
豊後大野市では、450人以上の外国人が居住している。

大分県 市町村別 在留外国人数(在留資格別)

大分県庁HPより

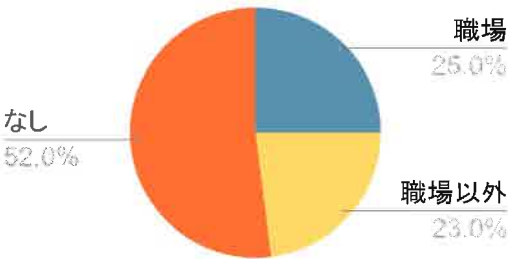
令和7年6月30日時点 (単位:人)

市町村	技能実習	留学	身分・地位に基づく在留資格※	特定技能	専門的・技術的分野	特定活動	その他	総数
大分市	1,187	710	1,588	801	528	78	269	5,161
別府市	214	3,424	846	157	503	76	329	5,549
中津市	851	3	486	149	212	1,091	108	2,900
日田市	295	-	134	119	63	5	45	661
佐伯市	348	-	94	360	61	10	15	888
臼杵市	174	-	68	183	17	8	8	458
津久見市	32	-	13	18	9	-	3	75
竹田市	139	-	56	165	36	19	11	426
豊後高田市	614	-	73	214	50	77	27	1,055
杵築市	163	-	67	59	28	34	9	360
宇佐市	534	117	178	162	106	130	76	1,303
豊後大野市	253	1	83	84	17	6	12	456
由布市	227	23	120	154	255	64	56	899
国東市	214	1	67	100	48	6	27	463
姫島村	-	-	1	2	-	-	-	3
日出町	108	3	68	51	45	13	11	299
九重町	44	-	26	9	68	2	5	154
玖珠町	51	-	46	22	13	1	3	136
合計	5,448	4,282	4,014	2,809	2,059	1,620	1,014	21,246

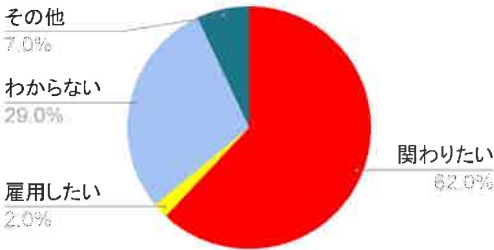
○県内の市町村からの報告による
※身分・地位に基づく在留資格・・・特別永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者、永住者

■ 市内在住日本人(80人)を対象に外国人との関わりを調査

外国人と関わったことがあるか



ないと答えた人のうち



■ 外国人と関わったことがない人のうち、半数以上が関わりたいと思っている。
これは、潜在的に「おせっかい」な人があることを示しているのではないか。

研修①:ルール・マナー研修の全体像

■日頃から外国人と関わりがない場合、ルールやマナーを守る日常の行動で、地域住民からの信頼を得ることが重要



●周知

やさしい日本語で、外国人にも伝わりやすく
参加しやすいイメージのチラシを作成



●ゴミ分別講習会

ゴミの出し方の講習会を実施。生ごみを新聞紙で包むなど、日本でのマナーが伝わりにくいことや、新聞を購読していない人のために、地域から古新聞を寄付してもらい、実際に家を尋ねて生ごみを新聞紙で包む実演を行った。



●交通マナー

市内のほとんどの外国人は、自転車で移動することがほとんどのため、警察官による交通ルールを学ぶ講習会を開催。



●勉強会前の楽しみ

軽食を提供し、コミュニケーションの場をすることで、参加しやすい環境づくり。

研修②: 知る「イスラム教の文化と生活(日本人向けセミナー)」



●外国人だけでなく、地域住民も歩み寄ることで
 共生の道を一歩進める

マレーシアやインドネシアなどはイスラム教であ
 り、日本の文化や生活とどのように違うのか。
 違いを理解することで、安心して暮らせるまちにつ
 なげます。

●周知

多くの方が参加してくれました。
 外国の文化に関心がある方が多いと感じました



●講師

真言宗の自覚大導師



●質疑

参加者からの質問も多く、外国人を理解しよう
 という意識の高さがうかがえました。



研修③: 女性向けの日常生活における健康講座



●健康上の理由により、やむを得ず帰国するケースもあることから、研修先の事業者からの要望により開催

●県立看護科学大学学生を講師として招き、日常生活における注意事項や性や健康に関する勉強会を行いました。



研修④:命を守る 防災・災害対応研修



- 日本における災害の種類や災害時の防災行動、非常食試食体験などを実施

- ## ●地震体験車による震度7の体験



- ## ●防災VR体験

- 講演

大雨や土砂崩れなどの災害疑似体験

市防災担当課職員や、防災士による防災学習



- ## ●非常食の試食体験



交流①: 日本の文化を学ぶ交流イベント(料理/文化)

7/12 (土)
18:00~20:00

技能実習生と交流しよう
カルパレおおの Vol.1

カルチャーパレット (通称カルパレ) とは?
いろんな国や地域の人たちが集まり、お互いの文化や言葉、暮らしのことを知り合う
交流の場です。「カルチャー」は文化、「パレット」は絵の具を混ぜる板のこと。
つまり、いろんな色=文化が出会い、混ざり合って新しいつながりが生まれる場所と
いう思いが込められています。どなたでも参加できます。
技能実習生が身近にいる方や、技能実習生も雇用している企業にお勤めの方はぜひお
誘い合わせのうえ、ご参加ください。当日参加も可能ですが、食料調達に都合上、事
前のお申し込みを優先させていただきます。

参加費: 大人300円/子ども100円
場所: ここのね自由な学校
〒520-0240 豊後大野市大野町中2400

※参加場所についてはお申し込み後、
別紙お知らせします。
イベント開催場所への交通費は各自で
ご負担ください。

お申し込み先: 参加申し込み先
グローバルおおの 豊後大野市立西宮小学校(裏庭)で活動中
イベントの詳細、参加の申し込みは
インスタグラムのDM (@global_oono) で検索またはは名のQRコード
もしくは、下記メールアドレスに参加人数をご連絡ください。
globaloono@gmail.com

手持ち花火
かき氷
アユの塩焼き
流しそうめん

■日本の食や文化に触れてもらうイベントを実施。地元の住民も参加。

●日本文理大の学生にも手伝ってもらい、鮎の塩焼き、流しそうめん、かき氷の準備を行いました。



●地域の方が安来節(どじょうすくい)を披露

●外国人と地域の子供と一緒にそうめん流し



を象徴する手持ち花火



●日本の夏

●たくさんの外国人が参加してくれました



交流②:料理教室「フォン先生のチェー教室」

■実習生からのリクエストでベトナムの料理を体験するイベントを実施。



●地元の方が親子で参加し、作り方を学びました



交流③: 地元の祭りへの参加「大野町田中夜市(タイ料理屋台出店)」

■地元のまつりに技能実習生が出店し、母国料理を提供



大分県多文化共生モデル委託業務 グローカルおおの

●まつり全体(道路を封鎖して歩行者天国)



●カオマンガイという料理を50食提供。完売しました。満足そうな実習生。



交流④:心の器づくり「多文化交流DAY(料理/文化/海外との交流)」

■日本人と外国人、外国人同士の交流を促進するイベントを実施



●技能実習生の料理の提供



●料理の仕込み手伝った看護大の学生



●海外とつないで、現地の生活や文化を知るクイズ大会を実施



●3カ国とWeb接続



交流⑤: 地域の学校との交流「稲葉学園の生徒との交流会」



相互理解の広がり: 日本人住民の変化

●これまでの活動を通じて、地域住民による外国人への「おせっかい」が始まりました。

自治会からは、「今後の交流イベントは地域に任せてもらっても大丈夫」との連絡があるなど、徐々に共生の輪が広がりつつある。

●豊後大野市緒方町

自治会と技能実習生との交流会

自治会長から技能実習生の食事の好みに合わせて買い出しに行くなど、「おせっかい」に加え、少し緊張しながらも、「おもてなし」により相手を知ろうとする第一歩が始まりました。



●豊後大野市犬飼町 スリランカ人と地域住民との交流会

スリランカ人からは、「楽しかった。嬉しかった。」との感想も。



情報発信：海外と企業を繋ぐ

- 日本での暮らしや、大分県のことを紹介するニュースレターを作成。県と連携した情報発信。



- インスタなどのSNSも活用したイベントなどの情報発信



実践チェックリスト: 明日からできる「おせっかい」

自治会などの地域コミュニティが、外国人の住民とゼロから信頼を築くための実践的なチェックリストを作成

「管理する側・される側」ではなく、「同じ街に住む隣人」として歩み寄ることがポイントです。

●チェックリスト例

カテゴリ	チェック項目	実施状況 (○/△/×)	具体的なアクション・メモ
1. 準備	自分以外に交流活動に取り組む仲間づくりが出来ている		
	先行して取り組んでいる団体などにいつでも相談できる		
	地域の「今」を知っていますか？		
	近くに住む外国人の国籍や人数を把握している		
	活動メンバーで「やさしい日本語」の基本を共有している		
	スマホに翻訳アプリ(Google翻訳等)を入れている		
2. 初期接触	「安心できる隣人」と思われていますか？		
	すれ違ったときに笑顔で挨拶(会釈)をしている		
	ゴミ出し等のルールを「教える・助ける」姿勢で接している		
	行事案内を「やさしい日本語」や図解で作成している		
3. 防災	「いざという時」の繋がりがありますか？		
	災害時の避難場所を外国人住民に伝えている		
	大雨や地震の際、安否確認の声かけを行った		
4. 交流	「同じ住民」として接していますか？		
	清掃活動や祭りに「一緒にやりましょう」と誘った		
	外国人住民の得意なこと(料理等)を知る機会がある		
5. 継続	相談しやすい環境を作っていますか？		
	困りごとを聞ける窓口(担当者)が決まっている		
	連絡網(LINE等)への招待や周知ができている		

このチェックリストを参考にまずは、地域内に居住する外国人が安心して住み続けられるような地域づくりと一緒に取り組んでくれる仲間を見つけましょう。

実践チェックリスト: 明日からできる「おせっかい」

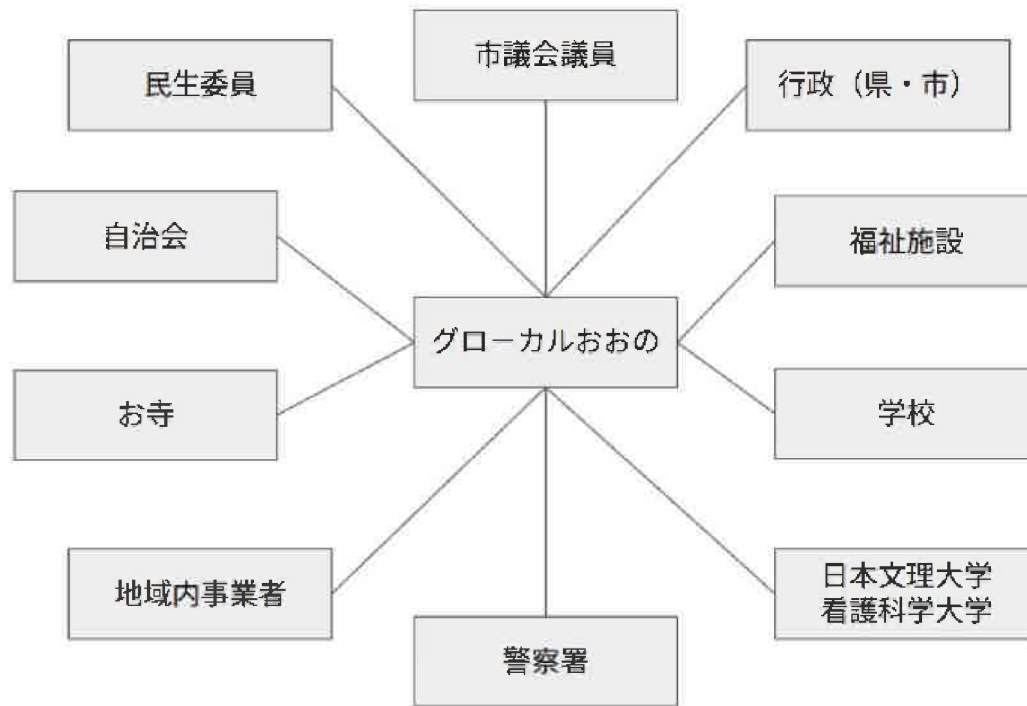
参考までに、グローバルおおのでチェックしてみました。

●グローバルおおのチェックリスト

カテゴリ	チェック項目	実施状況 (○/△/×)	具体的なアクション・メモ
1. 準備	自分以外に交流活動に取り組む仲間づくりが出来ている	○	コアメンバーは6人 イベント時のサポートメンバーも複数
	先行して取り組んでいる団体などにいつでも相談できる	○	県内の他団体とのつながりあり
	地域の「今」を知っていますか？	○	民生委員や研修先の企業などからの情報提供
	近くに住む外国人の国籍や人数を把握している	○	民生委員や研修先の企業などからの情報提供
	活動メンバーで「やさしい日本語」の基本を共有している	△	全員が基本を共有していないが、やさしい日本語を意識している。
	スマホに翻訳アプリ(Google翻訳等)を入れている	△	必要に応じて活用している。
2. 初期接触	「安心できる隣人」と思われていますか？	○	外国人側から話かけられることが多い
	すれ違ったときに笑顔で挨拶(会釈)をしている	○	基本の行動として、相手に安心感を与えるために必要なこと
	ゴミ出し等のルールを「教える・助ける」姿勢で接している	○	勉強会を開催するなど、ルールやマナーを学ぶ機会を提供している。
	行事案内を「やさしい日本語」や図解で作成している	○	文字だけでなく、イラストも使うなど、伝えることを意識している。
3. 防災	「いざという時」の繋がりがありますか？	○	全員ではないが、外国人同士のネットワークの中でつながっている。
	災害時の避難場所を外国人住民に伝えている	○	防災学習会などを開催している。
	大雨や地震の際、安否確認の声かけを行った	—	
4. 交流	「同じ住民」として接していますか？	○	地域の日本人にも同様に意識してもらうよう交流イベントなどを実施
	清掃活動や祭りに「一緒にやりましょう」と誘った	○	地域のイベントに出店するための支援などを実施
	外国人住民の得意なこと(料理等)を知る機会がある	○	交流イベントを通じて料理や文化を地域住民に知ってもらう機会を提供
5. 継続	相談しやすい環境を作っていますか？	○	イベント等を通じて信頼関係を構築するようになっている
	困りごとを聞ける窓口(担当者)が決まっている	○	森代表
	連絡網(LINE等)への招待や周知ができている	△	全員ではないが、外国人同士のネットワークの中でつながっている。

実施体制：地域内のつながり

●「グローバルおおの」が活動する上で、地域とのつながりを見える化してみました。



【解説】

このようなつながりは、最初からすべて出来ていたものではありません。

我々が、外国人との共生に向けた活動をする上で、サポートのお願いや、外国人との間の課題の共有、お互いにどのように感じているかなど、コミュニケーションを通じて少しずつ相互に理解し、支援の輪が広がっていきました。

今後も、活動を続けることで、さらに増えていくことになると思います。

地域内に居住する外国人と地域内の各団体や組織をつなげるハブとしての役割が形になってきたと考えています。

まとめ

●外国人との共生に向けて

今年度、豊後大野市内の2地域(緒方町、犬飼町)で、外国人居住者と自主的な交流会が開催されました。今後、当団体のサポートがなくても、「おせっかい」が始まったことは、とても大きなことです。

これまでの活動を通じて、外国人との共生に向けたポイント

○お互いに身近な存在として認め合うこと。

○日本人にも、外国人にも、思っていることを伝えること。伝え続けること。

当たり前のようですが、言葉の壁や文化の違いなど、様々な要因によって、実現したくても実現出来ていないのではないのでしょうか。

我々の活動は、あくまで一つの事例です。これまで、豊後大野市内でつながりをつくりながら、イベントや学習会などを通じて、お互いを認め、伝えることを、続けてきたことをご紹介します。

今後、他の地域でも、それぞれの地域の状況に応じて、外国人との共生に向けた活動がさらに拡大していくことを望んでいます。